

特集

賃貸住宅の豊かさを
展望する

02
「居住福祉」の諸相
(5)
社会的擁護からの
巢立ちを支える寮
岡本 祥浩

04
主張
老人会の会長に
なりました
片井 克美

06
大月 敏雄
賃貸集合住宅の広がり
と21世紀のミニマリズム

10
鮎川 沙代
若者と高齢者の助けあい
居住のかたち
——藤沢市ノビシロハウス

26
構造設計の楽しみ
(2)
勤と経験と電卓で
構造計画
松島 洋介

14
安谷屋 貴子
コラム:「部屋に住む」
のではなく「町に住む」
感覚
——荒川区トダビューハイツ

28
新建のひろば
さらなる運動のひろがり
を〜枚方市駅周辺
再整備は市民参加で
京都支部——実践報告会
「千本北大路界限
での取り組み」
オンライン講座 新建ゼミ
これからの建築
人は何を指すか!〜藤本
豊也さんと
のクロストーク〜

16
(インタビュー)
鵜ノ杜舎、地域に「nezasu」
賃貸住宅を作るプロセス
としくみ
——ブルースタジオ・丸山
アーバンに聞く

21
関川 華
フランスの賃貸住宅事情
——紆余曲折から生まれた
都市における住まいの
選択肢

33
私のまちの
隠れた名建築
(16)
吉田医院と福井神社
福井県福井市
西 一生

(表紙写真)
鵜ノ杜舎 交流が生まれる
通路のテラス
高田 桂子

再検討を」と、熱弁をふるった。
(御所市議議員)

デマンドタクシーをもっと便利に
川本雅樹
この3月議会で、今年1月から試
行運転を始めたデマンドタクシーを
取り上げた。市南部から市北部の市
役所や駅、病院に移動するのに、あ
らかじめ登録しておいた人が前日ま
でに電話で予約して利用するという
もの。運行日は月曜から土曜日、運
行時間は9時〜17時、大人500円、
65歳以上の高齢者300円となってい
る。自分の都合のいい時に安く移
動できるということで導入された。
ところが、運行を始めて約2カ月
経つが、すこぶる評判が悪い。1月
は1日平均5・7人、2月は7・7
人しか利用していない。それは出発
点が原則大字に1カ所しかないから
だ。中山間地の集落で大字に1カ所
では話にならない。「出発点まで歩
いていけない」という声が圧倒的だ。
市当局は、「タクシー会社の経営を
圧迫しないように。あくまでデマン
ドは補充的なものだ」と言う。しか
し、なんのための地域公共交通の整
備なのか。人間は移動を制約される
と、日常生活や文化生活、社会参加
が貧困になって、極端な場合は生存
権が脅かされる状況になる。「生き
ていく上で交通手段というのは大事
な人権であって、交通権の保障は日
本国憲法25条に由来する権利である
ことの確認から出発する必要がある。

老人会の会長になりました

片井克美

片井建築設計事務所／全国常任幹事

今年度1年間、地域の老人会（シニアクラブ）の会長を務めることになりました。参加は任意で会員数は110名ほど、会員の年齢は99歳から66歳で親子以上の年齢差があります。老人会の活動としては、神社清掃や独居老人の見守りなどのボランティアや資金集めのための古紙回収、年に2回の日帰り親睦旅行、忘年会などです。また、月に1度、社会福祉協議会の協力でサロンの運営もしています。役員は60代後半から70代前半の男性です。農村部でもあり、ほとんどの会員は長く住んでおり、特に男性の大半はここで生まれ育った人たちで、私もその一人です。

老人会は、数十名から100名ほどの地域単位クラブがあり、市町村、県、そして公益財団法人全国老人クラブ連合会というピラミッド状に組織されています。「地域を基盤とする高齢者の自主的な組織」で、①生活を豊かにする楽しい活動や、②地域を豊かにする社会活動を通じて、③明るい長寿社会づくり、保健福祉の向上に努めることを目的とされています。会員の会費により運営されていますが、老人福祉法により、地方公共団体からの補助金も受けています。

全国の老人会の悩みは会員減少です。高齢者は増えているのに、会員は減っているのです。私の住む町も全国と同じように、高齢者は増えている

（15年で1.5倍）のですが、老人会の会員は減っています。役員のなり手がいないため運営できずに活動を止めたり、組織そのものが消滅している地域もあります。ネットで「老人会」と検索すると、全国の組織で会員減少の指摘や嘆きがあります。若手の老人（？）が入会しないのです。

私の地域でも同じで、65歳から入会できますが60代は数名しかいません。後は80代以上と70代が同数くらいです。この数年間の会員数を調べたら、70代以上の会員数はあまり変わっていないのに、60代が1/6以下になっていました。高齢の会員を若い会員がお世話するという体制で、老々介護にも似た、特に女性に負担がかかるような構図にもなっています。お世話する若い会員がいなければ組織が成り立たなくなってくるのです。

一方、小学生で組織する子供会の会員も激減しています。小学校の児童数は15年前に比べて5%ほど減ってはいますが、子供会の会員は1/3くらいになっています。子供会に入らない子供が増えているのです。野山で遊んでいる子供たちを目標にすることも少なくなりました。

老人会や子供会の会員減少は地域とのかかわりが希薄になり、地域のコミュニティが崩壊しているのが原因といわれています。私の住む農村部では地域コミュニティは、生活する上で必要であっ

たのですが、無言の圧力もあり維持されてきたように思います。その残骸は残っており、移住や結婚によりこの地域に移り住んだり、その中に入れない人たちにとっては、既存のコミュニティは息苦しく最小限のかかわりとならざるを得ないと思います。自立した個人が参加でき、発言できるコミュニティが求められています。新建憲章に謳うまらづくりと一緒です。

超高齢社会となり、高齢者を排除したり、若い人との分断を図るような極端な論調がネットやテレビでも話題となっていますが、今まで社会を維持してきた高齢者を排除することなく、一緒に生活できるコミュニティを創っていく必要があると思っています。私の住む地域でも独居老人が増えています。地域で誰一人取り残さない取り組みはどうすればよいか。今までのコミュニティを検証し、若い人たちとも交流ができるような老人会を目指しています。防災士として地区防災組織づくりにかかわっており、連携した活動も模索中です。

誰もが人生の最後に、ここに住んで良かったと思つて死んで行ける地域を目指し、新建憲章や皆さんたちのお知恵を拝借しながら、地域コミュニティ再生の足掛かりを築く試行錯誤のこの1年を楽しみにしています。